

たぐろ

TAKUSUI
No. 672

10
October, 2012

発行 財兵庫県水産振興基金

兵庫の漁業人のための情報誌



タッチプールのサカタザメ (高砂市)

NEWS 瀬戸内海再生への取り組み～瀬戸内海関係漁連・漁協連絡会議～
ノリ採苗作業始まる!

Report 平成24年度 豊かな海創生支援協議会 報告会開催
今年も開催! 「お魚教室」～摂津播磨地区漁協青壮年部連合会～

平成24年度第1回瀬戸内海関係漁連・漁協連絡会議(会長・組合長会議)開催

JF兵庫漁連 指導部

平成24年9月24日(月)平成24年度第1回瀬戸内海関係漁連・漁協連絡会議が山口県下関市において開催されました。

会議に先立ち、独立行政法人水産大学の鷲尾 圭司



理事長より「瀬戸内海のあるべき姿」と題して話題提供がありました。環境省の中央環境審議会 瀬戸内部会企画専門委員会の委員でもある鷲尾理事長は、漁業の現場を知る数少ない委員の一人であり、「痩せていく海」を「豊かな海」へ再生し、その海で育まれた「安全で良質な瀬戸内の魚」を如何にして消費者に提供していくかなど、我々漁業者が取り組んでいかなければならない課題についてお話しいただき大変興味深い内容でした。

今回の会議では、主に瀬戸内海の漁連・漁協が「真に豊かな海」を再生するために、取り組まなければならない事柄が協議され、我々の要望が、今後も漁業者の声として施策に反映されるよう引き続き関係機関へ要望していくことが確認されました。また、去る6月16日、自民党国会議員を中心に組織された瀬戸内海再生議員連盟とも歩調を合わせ新法成立に向けて取組みを進めることも確認されました。

第4回香住ガニまつり開催

JF兵庫漁連 但馬支所

9月15日(土)、香美町の香住漁港西港にて「第4回香住ガニまつり」が開催され、県内外から大勢の観光客が詰め掛けました(主催者発表で2万人)。

JF但馬の香住西港は、近畿地方唯一のベニズワイガニ水揚げ港で、水揚げされたベニズワイガニを「香住ガニ」としてブランド化し広くPRを行っています。

会場では香住ガニや地元海産物の即売会や素人競り市などが行われ、大いに賑わいました。また、ポイルガニ・焼きガニ・カニ汁が計5千人に振る舞われ、来場者は長い行列を作り香住ガニを味わっていました。

ベニズワイガニカゴ漁は来年5月末まで行われます。



ノリ採苗作業 はじまる!

～JF兵庫漁連では6万反弱を作業～

JF兵庫漁連 のり共販部

明け方の気温が低くなってくる9月下旬ごろから始まるノリ採苗作業は、今年も各浜で行われています。



JF兵庫漁連のノリ採苗作業は9月27日(木)から開始しました。途中、台風の接近などありましたが作業は順調に進んでおり、10月中旬には淡路のりセンター、兵庫のり研究所で6万反弱の種網の作業を終了します。

昨年は順調であったノリ養殖。今年も順調でありますように……。



～おさかな料理教室で婚活～

県漁青連が消費者交流会を開催

JF兵庫漁連 広報部

理スタート!

調理メニューは、明石だこサラダ、アナゴの天ぷら、ガザミ汁、兵庫海苔を使った手巻き寿司の4品。魚の扱いは青壮年部メンバーが指導し、参加者は慣れない魚料理に四苦八苦しながらも、協力して調理を進めていました。

出来上がった料理を囲み、フリータイムスタート。ゲームで盛り上がった頃には、だんだんと夕暮れに。おいしいご飯で話も弾み、見事5組のカップルが誕生しました。今回のイベントは、料理を通じてお互いの人柄がよく分かったとのこと。カップルが成立したみなさん、おめでとうございます!

漁師によい出会いを……。

『たくましい海の男たちと!料理婚活@海の見えるキッチン♪～明石海峡を眺めながら～』と題し、9月15日(土)に兵庫県水産会館4階調理室で、兵庫県漁協青壮年部連合会主催の消費者交流会が開催されました。

参加者は、彼女募集中の青壮年部メンバー16名と、県内各地より集まった女性16名。自己紹介の後、明石ダコやウニ、ガザミ、ハタハタなど各地区漁青連が自ら持ち込んだ自慢の食材を紹介した後、4班に分かれて調



皆さん、楽しそうに料理を作っていました



魚のさばき方の講習もありました

平成24年度役員総代研修会を開催

兵庫県内海漁船保険組合

当組合では平成24年度役員総代研修会を9月4日(火)から2日間の日程で、広島県において開催しました。

開会にあたり山田 隆義組合長(JF神戸市)は「今も海難事故により組合員の尊い生命が失われている」とし、出席の役員総代には、心を込めて祈願いただくようにと挨拶をされました。

研修会1日目は「厳島神社」の拝殿において海上安全祈願祭が行われ、管内39JF組合員の海上航行・操業



の安全を祈願し、山田組合長が役員総代を代表して神前に玉串を奉奠し、厳粛裡に終了しました。

2日目は、江田島海上自衛隊第1術科学校

(旧海軍兵学校)及び海上自衛隊呉基地の護衛艦「さざなみ」を見学しました。ここでは、国を守るために日夜訓練を積み重ねている自衛官を目の当たりにし、尊敬と感謝の念を禁じませんでした。

研修会の最後には前田 吉計副組合長(JF南淡)から「期間中は無事に行事を終了することが出来た」と参加者に感謝の意を示され2日間にわたる研修会を終えました。



防災意識をさらに高めよう! ～兵庫県水産会館で消防避難訓練～

兵庫県水産会館では防火・防災の意識を高め、緊急時に対する備えや消火設備等の知識を高める目的で、毎年消防避難訓練が行われており、今年で3回目となります。

9月26日(水)、午前9時30分に館内に火災警報装置のベルの音が鳴り、1階から出火したという想定のも

地震・津波について学ぶことが出来ました



消火器の体験実習に取り組む参加者

と、入居している団体職員約50名が脱出訓練や、消火器の体験実習も行いました。

その後、「南海トラフの巨大地震の想定 津波警報等の改善」と題した講義で、神戸海洋気象台 田原 亮一地震津波防災官から、地震のメカニズムのほか、近いうちに起こるとされる南海巨大地震についての説明、想定される震度・津波の高さなどについて話がありました。終了後には参加者から多くの質問が出され、関心の高さが伺われました。

各地の活動内容が報告

～平成24年度豊かな海創生支援協議会 活動事例報告会にて～



吉田副園長のアサリの生息環境に着目した発表

9月14日(金)兵庫県水産会館にて、国や地方自治体の交付金で実施されている環境・生態系保全活動支援事業の平成24年度の活動事例報告会が、JF(活動組織)・系統・行政などの関係者約40名を集め開催されました。

今年度は、県下各地区で行われたH23年度活動の中から「耕耘による貝類生息環境の改善」と「ため池の“かいぼり”による栄養補給の実践状況」の2例について報告がありました。

「耕耘による貝類生息環境の改善」の報告は、神戸の浅場を守る会(神戸市立須磨海浜水族園 吉田 裕之副園長)から、近年獲れなくなったアサリの現状のほか、その生息を阻害していると思われるホトトギスガイの海底耕耘による駆除の方法、耕耘機(マンガ)の改良等による効果のほか、今後の食害種駆除へのヒントが報告されました。



これまでの活動を振り返る鈴木課長補佐

また、「ため池の“かいぼり(池干し)”による栄養補給の実践状況」では、淡路市水産振興課 鈴木 孝治課長補佐より、平成20年から淡路で取り組んできた“かいぼり”の経緯とその内容、今後の活動についての報告があった



かいぼりに期待を寄せる森組合長

後、同活動の当事者として現場で実践しておられる森 義政組合長(JF森)から「雨の後、例年沖の漁場から戻ってくるノリの色が昨年は陸側から戻ったこと、かいぼり後の測定で栄養塩の上昇が見られた。さらに今後の課題としてノリの色落ちが発生する冬場は、農業者が池に水を貯める時期でもあり、かいぼりの時期の調整が難しく、この解決策を模索中である。」ことなどが報告されました。

この後、県水産課 漁場整備係 藤 克浩主査より「豊かな海づくりに係る取組について」と題し、県が「水づくり・畑づくり・種づくり」を基本として、取組んでいる栄養塩管理、新法(瀬戸内再生)制定等の取組みについて紹介があり、県水産技術センター 反田 實所長からは「播磨灘の栄養塩環境と漁業」と題し、栄養塩管理、二枚貝の増殖、藻場・干潟の回復と造成(海への砂の供給)による漁獲高の向上について報告がありました。

各発表に対し、会場からは様々な意見が出されたほか、熱心にメモを取る姿も見受けられ、有意義な報告会となりました。

10月は「全国漁船安全操業推進月間」

今月は「全国漁船安全操業推進月間」として、大日本水産会を主体に、JF全漁連、水産庁、海上保安庁など様々な漁業の関係団体が一丸となり、全国で漁業者並びに漁業関係者へと海難事故防止に向けた運動が推進されています。

全国漁船安全操業推進月間の目的

- 1) 漁船安全操業に関する漁業者意識の向上
- 2) ライフジャケット着用率の向上等による人身事故発生の減少
- 3) 安全航行・安全操業の徹底による漁船海難発生等の減少

全国で年間約100件の事故が発生している中、今年本県（内海側）では、一昨年の2倍となる、6件の不幸な海難事故が発生しています。事故原因は日頃の慣れによる「見張り不十分」や「居眠り運転」などの人為的なものが7割以上とされ、ライフジャケットを着けていれば助かっていた事故も見受けられます。

家族や周りの仲間に悲しい思いをさせないために、海中転落時の命綱となる「ライフジャケット着用」や操業中忙しく疲れたときこそ「周囲への見張りの意識」などの操業安全が第一に望まれます。

兵庫県漁業協同組合連合会・共水連兵庫県事務所・兵庫県内海漁船保険組合・（公財）ひょうご豊かな海づくり協会・（財）兵庫県水産振興基金の系統5団体では、JFと共に“命を守る運動”「海上安全講習会」を各地で開催しています。開催をご希望される場合は
JF兵庫漁連 指導部
(078-940-8013)
 までご連絡下さい。

10月は全国漁船安全操業推進月間です

これまでの月間の取組の例...

- 組合員が相互に安全な操業や救命胴衣の着用の声かけ
- 海難防止・安全講習会を開催し組合員が参加
- 女性部による浜での呼びかけ(ライフジャケット着用徹底等)

ライフジャケットを着よう

ライフジャケットを着ないと、海に転落した際の死亡率が2.5倍になります!

着用状況	事故者数	生存者数	死亡率
着用者	96人	390人	22%
着用者	54%	532人	
着用者	461人	993人	2.5倍危険

○ ライフジャケットの着用義務があります。

- 一人乗り漁船で漁労中に未着用の場合、6ヶ月以内の免許停止の処分対象
- 船員法対象漁船では、乗組員はもちろん、船主にも乗組員に着用させる義務

みんなでメンテナンスしよう!

- スプール等を定期交換していますか?
- 取り付けが緩んでいませんか?
- ポンベにサビ・傷等はありませんか?

着る前に、チェック!

- ベルトやバックル、作動索等は破損していませんか?
- 気室布等が破損していませんか? 補助送気管に息を入れて空気漏れはありませんか?

海難の未然防止のために

- 漁具や漁獲物の扱いに気を取られて見張りがおろそかになっていませんか? しつかり見張りを行っていますか?
- 早めの回避行動を心がけていますか?
- 航行・操業中の横波、追い波に対して注意していますか?
- 操船を自動操舵まかせにして、居眠りしていませんか?

平成23年漁船事故(衝突・乗撞)の原因

原因	割合
船位不確実	2%
操船不確実	12%
居眠り/居眠り	12%
人為的要因以外	4%

但馬地区の各漁協青壮年部が「少年水産教室・漁業体験教室」を開催

JF兵庫漁連 但馬支所

但馬地区の但馬・浜坂町両漁協の青壮年部は、乗船体験等を通して地元基幹産業である漁業の魅力や重要性について知ってもらおうと、それぞれの地区の参加者を対象に様々な活動を行いました。

香住東港において8月1日に津居山青壮年部、8月2日に浜坂町漁協青壮年部が県立香住高等学校と共催し同校実習船「但州丸」に乗船し底曳網漁業を体験しました。また、香住青壮年部は8月2日に香住東港にて、柴山青壮年部は8月3日に柴山漁港にて、兵庫県漁業調査船「たじま」での底曳網漁業体験を行いました。

各地区の参加者は、小学校4～6年生とその保護者、教員でしたが報道関係者の姿もありました。本年度は地元以外の児童の参加もあり、参加者は底曳網体験で漁獲されたいろいろな魚に目を見張っていました。

また、漁協・女性部の協力で地元水産物を使った昼食を食べたり、イカの一晩干しづくりや、香住高校において缶詰製造作業を体験したり、ブランクトン観察も行うなど、各青壮年部が工夫を凝らした盛り沢山のプログラムは大好評でした。水産業に親しみを持ってもらいつつ、夏休みに最高の思い出が出来たのではないかと思います。

各青壮年部は、この少年水産教室・漁業体験教室を通して漁業について理解を深めてもらい、後継者育成や

更なる魚食普及に繋がりたいと考えています。また、今回の経験を生かし、県・市町・学校・漁協・女性部・青壮年部等と更なる連携を強め、来年以降も継続していきたいと思っております。

少年水産教室・漁業体験教室の場を提供していただき、多大なご協力を賜りました県立香住高校ならびに県水産技術センター、その他関係諸団体の皆様にご場をお借りしまして、厚く御礼申し上げます。



イカの一晩干しづくりを体験（津居山青壮年部）



大きなマダイが獲れたよ！（浜坂町漁協青壮年部）



調査船たじまの操舵室を見学（香住漁協青壮年部）

但州丸の前で記念撮影（柴山青壮年部）



今年も開催!「漁師さんのおさかな教室」 ～高砂市立米田西保育園にて開催～

摂津播磨地区漁協青壮年部連合会

“魚をもっと食べてもらおう”と始まった摂津播磨地区漁協青壮年部連合会(大角生馬会長)の「おさかな教室」。今年は高砂市の米田西保育園に、園児の親子約40組(約90名)が参加し開催されました。

9月21日(金)の教室は漁青連のメンバー、県・系統団体の職員がスタッフに加わり、料理の下ごしらえやタッチプールの準備を進めた後、園児たちが会場に入ってきました。食育参観として開催されたこの日の教室は、今までになく大人数なため、半分は調理、半分はタッチプールと2班に分かれ始められました。お魚ハンバーグ作りではスタッフの見本に続いて、親子一緒になって挑戦し



スタッフの包丁さばきに興味津々



包丁さばきも良くなりました!

ました。初めて包丁を触る子どもも多くいたようで、初めは緊張した面持ちで包丁を持った園児たちでしたが、アジの身を切り始めると、みんなお母さんと一緒に嬉しそうに作っていました。

一方、タッチプールの子どもたちは、タコ・タイ・サメなど知っている魚だけでなく、エイ・カワハギ・アコウなど見慣れない魚が用意されたプールに興味津々。最初は怖がっていた子供もいましたが、いろいろな魚を触っているうちにだんだん歓声が大きくなり、最後には次々に手づかみをして楽しんでいました。



たくさんの親子が参加しました

昼食には調理したお魚ハンバーグと、スタッフが用意したタコ飯とガザミの味噌汁も一緒に親子で試食しました。おかわりする子どもやきれいにガザミを食べる子どももいてとても好評でした。また、子供たちから魚に関する質問があり「アジを獲るコツは何か」や「タコはどうやって釣るのですか」といったものや、保護者から「上手に魚を焼くコツは?」、「三枚おろしのコツは?」といった質問も飛び出し、スタッフが回答していました。最後に同園の北野 実千代園長から「命を頂くということに理解が深まったと思います」と挨拶があり終了しました。

今回は今までにない大人数の教室となり、関係者は少し心配していましたが、無事、終了することが出来ました。今後も様々な地域で取り組みを続けていきます。



飛び上がってきたサカタザメ。しかしこの後…
(表紙の写真のとおり、暴れてみんなビックリ!)



～海からの視点で砂問題を考える～

「豊かな森川海を育てる会」が研究会を開催!

豊かな森川海の再生と保全を目的に活動されているNPO法人「豊かな森川海を育てる会」とJF兵庫漁連は、来る12月2日(日)に山・川から海へ流入する砂について考える研究会を開催いたします。当日は、京都大学 藤原 建紀教授を迎え「海から見た砂問題(仮題)」と題した講演や事例報告が行われます。

皆様、ぜひご参加下さい!(参加無料)

日 時：平成24年12月2日(日) 14時から
 会 場：垂水漁港管理施設事務所 2階 会議室
 (神戸市垂水区平磯 垂水漁港内)
 主 催：豊かな森川海を育てる会
 協 賛：JF兵庫漁連
 お申し込み・お問い合わせは

JF兵庫漁連 指導部 (TEL : 078-940-8013)

まで

ひょうご エコフェスティバル 2012

子どもから大人まで
楽しめるエコのイベントだよ！
会場には、楽しく遊んで学べる
コーナーが盛りだくさん！
家族や友達と一緒に
遊びにきてね！



兵庫県マスコット
はばタン

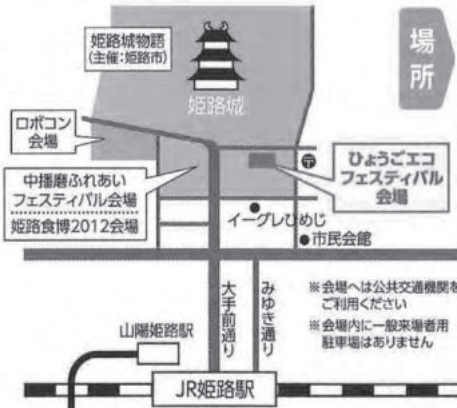
入場
無料

平成24年

日時

11月10日(土)/11日(日)

10:00~16:00



場所

大手前公園周辺(姫路市本町)
中播磨ふれあいフェスティバル同時開催



楽しく環境を学ぶコーナー

身近な環境を考えるための化学実験、エコ工作、環境クイズなど、楽しく環境について学べるコーナー

- ペットボトルでガーデニング体験
- 貝殻などを材料にしたモザイク工作
- 忍者えのぐ、pH測定、炎色反応などの環境化学実験
- 木材、どんぐり、押し花を使った工作



新しいライフスタイルコーナー

マイエコバッグづくり、省エネ生活など、くらしの中の環境について考えるコーナー

- マイエコバッグづくり
- MCによるスライドショー「ごみのゆくえ」
- 間伐材を利用した竹細工づくり
- エコライフゲームに挑戦しよう
- 木くず、紙くず、汚泥などのリサイクルについて学ぼう



省エネルギー・新エネルギーコーナー

太陽光発電などの自然エネルギー、LEDライトや省エネカーなどの省エネルギーについて学べるコーナー

- 紙芝居「ぼくの地球を守って」
- 備長炭電池づくり
- パラボラ集光器とフレネルレンズを見よう
- ケナフ工芸教室
- 電気自動車、電動バイク、充電ポイントを見よう



お問い合わせ先

ひょうごエコフェスティバル実行委員会 [事務局:兵庫県環境政策課]

TEL 078-362-9895 FAX 078-362-4024

共催 (財)ひょうご環境創造協会

協賛 大阪湾広域臨海環境整備センター/兵庫県大気環境保全連絡協議会/兵庫県瀬戸内海環境保全連絡会/兵庫県フロン回収・処理推進協議会/(一社)兵庫県水質保全センター/兵庫県電機商業組合/新日本製鐵(株)広畑製鐵所/(株)ローソン/グローリー(株)/イオンリテール(株)/尼崎信用金庫/神戸ヤクルト販売(株)/大阪ガス(株)/ハリマ産業エコテック(株)

*都合により内容は変更する場合があります。*ごみ持ち帰り運動にご協力をお願いします。

小学生40名の講師体験記 ～兵庫県漁業士会主催の 「おさかな教室」から～

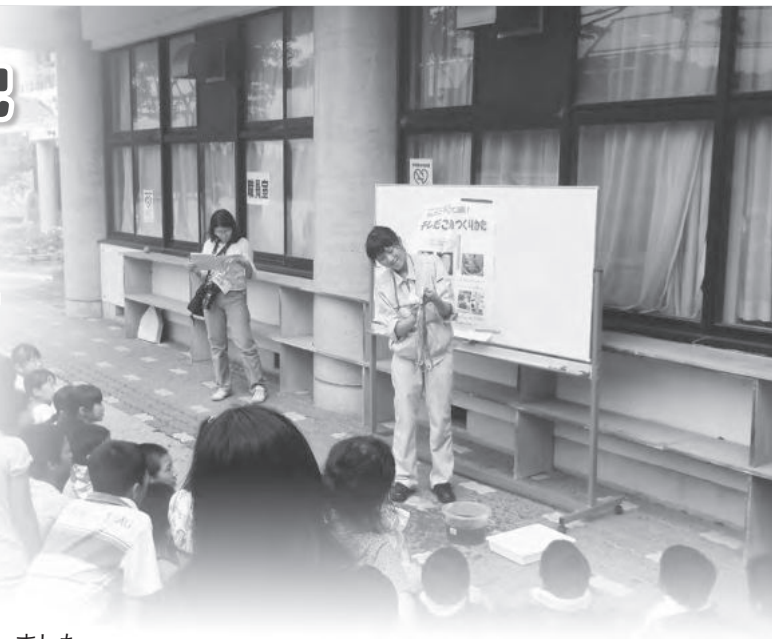
洲本農林水産振興事務所 宮田 佳子

8月29日(水) 兵庫県漁業士会(魚住幸市会長: JF育波浦)は、淡路市立尾崎小学校の全校児童40名を対象に「おさかな教室」を開催しました。この取組みは近年の若年世代を中心とした魚離れの進行に対し、魚食普及を図るため4年前から実施されています。今年度は和歌山、徳島、兵庫の3県漁業士会の活動の一環として各県の漁業士にも協力いただき、淡路市やJF兵庫漁連の職員さんとともに洲本農林水産振興事務所から私(宮田)も参加しました。以下はその体験記です。

教室では生きたマダコを使って干しダコづくりに挑戦しました。元気良く動きまわるタコを見て、「気持ち悪い」「触りたくない」「出来るわけないやん」と言っていた子どもたちを前にし、初めて講師を務める私は一回でタコをめられるのかと緊張で少し手が震えてしまいました。そんな中、活きのよいタコは私の腕に絡みつき、前列に座っていた子どもたちは少し不安そうな顔でこちらを見ていました。いざ! マダコの目と目の間の急所を突くと、みるみる真っ白になり、もがいていた腕がだらんと垂れる姿を見て「うあ〜」「きゃ〜」と驚きの声があがり、上手く締めることが出来てほっとひと安心しました。

低学年の児童も保護者に手伝ってもらいながら、最後まで頑張り完成させていました。初めは、タコを触ることも嫌がっていた子どもたちでしたが、最後には「楽しかった」「家でもやってみたい」などの声が多く聞かれ

子どもたちの目が印象的でした

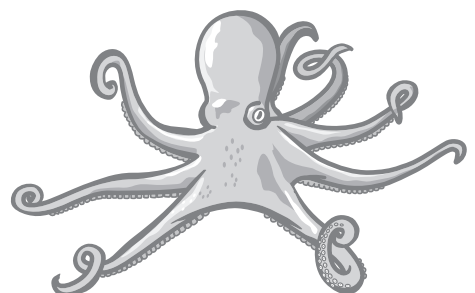


ました。

今回の体験が「生き物の命をいただき食べ物とすること」について考える機会になってもらえたら幸いです。また当日は、テレビや新聞等でも多数報道していただき、漁業士会活動のみならず私達の普及活動を知っていただくきっかけとなりました。魚離れを食い止めるためには、幼い頃に体験学習の機会を設けることが大変効果的であると考えております。これからも漁業士会と協力し、様々な活動を通じて魚食普及を推進していきたいと思っております。



干しダコ作りを指導する魚住会長



税務署からのお知らせ

平成26年1月から 記帳・帳簿等の保存制度の対象者が拡大されます

- ▶ 事業所得等を有する白色申告の方に対する現行の記帳・帳簿等の保存制度について、平成26年1月から対象となる方が拡大されます。

※ 現行の記帳・帳簿等の保存制度の対象者は、白色申告の方のうち前々年分あるいは前年分の事業所得等の金額の合計額が300万円を超える方です。

平成26年1月からの記帳・帳簿等保存制度

◎ 対象となる方

事業所得、不動産所得又は山林所得を生ずべき業務を行う全ての方です。

※ 所得税の申告の必要がない方も、記帳・帳簿等の保存制度の対象となります。

◎ 記帳する内容

売上げなどの収入金額、仕入れやその他の必要経費に関する事項を帳簿に記載します。

記帳に当たっては、一つ一つの取引ごとではなく日々の合計金額のみをまとめて記載するなど、簡易な方法で記載してもよいことになっています。

◎ 帳簿等の保存

収入金額や必要経費を記載した帳簿のほか、取引に伴って作成した帳簿や受け取った請求書・領収書などの書類を保存する必要があります。

【帳簿書類の保存期間】

保存が必要なもの		保存期間
帳簿	収入金額や必要経費を記載した帳簿（法定帳簿）	7年
	業務に関して作成した上記以外の帳簿（任意帳簿）	5年
書類	決算に関して作成した棚卸表その他の書類	5年
	業務に関して作成し、又は受領した請求書、納品書、送り状、領収書などの書類	

記帳・帳簿等の保存制度の詳細については、国税庁ホームページ (<http://www.nta.go.jp>) の「個人で事業を行っている方の帳簿の記載・記録の保存について」をご覧ください。最寄りの税務署にお電話いただき、自動音声にしたがって「2」を選択後、所得税担当までお問い合わせください。



「山田錦酒粕ようかん」 を新発売

JA兵庫みらいは、特産の酒造好適米「山田錦」を多くの人に広くアピールして振興につなげようと、「ひょうご農商工連携ファンド事業」で神戸市の製餡メーカー（株）松原製餡所と連携して、「山田錦酒粕ようかん」を開発しました。同JAの農産物直売所「かさい愛菜館」、三木みらい館、「サンパティオおの」、「サンパティオおのゆびか店」の4カ所で8月3日より販売しています。

同JA管内は、全国有数の「山田錦」の産地。全国各地の酒造会社に出荷しており、高い評価を得ています。

新発売した「山田錦酒粕ようかん」は、今年の4月に発売した「いちじくようかん」に続き、兵庫県が策定する「ひょうご農商工連携ファンド事業」を活用した商品開発の第2号。日本酒の風味がほんのり広がる上品な甘さに仕上げ、女性やお酒の弱い方にもお薦めです。

開発担当の職員は「たくさんの方に食べていただき、山田錦を知ってもらえれば」とPRしています。

「山田錦酒粕ようかん」は1本（300グラム）500円。お問い合わせは同JA営農部（0790-47-1282）まで。



新発売の「山田錦酒粕ようかん」

<http://ja-grp-hyogo.ja-hyoinf.jp/>

ピースアクション2012 「広島被爆ピアノ平和 コンサート」を開催

兵庫県生協連では、毎年、県内のさまざまな分野の生協と一緒に、平和の大切さ、尊さをみんなで考え確かめ合う場としてピースアクションの取り組みを行っています。

8月10日、今年で4回目となる「広島被爆ピアノ平和コンサート」を、兵庫県民会館・けんみんホール（神戸市中央区）にて開催。約200名が平和の音色に耳を傾けました。

今回演奏された「カズコの被爆ピアノ」は、広島市で原爆投下時、爆心地より2.6kmの民家で被爆。爆風で無数のガラス片が突き刺さったピアノは、所有者よりピアノ調律師の矢川光則さんに託され、現在、平和の大切さを伝えるために全国各地でコンサートを開いています。矢川光則さんは被爆ピアノとの出会いやご自身の活動について語られ、「平和だからこそ、音楽を奏でることができる。このコンサートが、平和の尊さを考えるきっかけになっていただければ」と話されました。

続いて、ピアニスト・向井理佐美さん、ソプラノ歌手・工西美穂さんの演奏と、一般公募の3名の方が被爆ピアノを奏でました。最後は会場の参加者全員で「夏の思い出」「ふるさと」を合唱し終演。平和を祈り続ける被爆ピアノ。その美しい音色に、会場の参加者からは「世界中の人に平和の音色が届きますように」「改めて日々過ごしている毎日に感謝したいです」という声が寄せられ、心温まるコンサートになりました。



休憩時には多くの方に被爆ピアノを間近でご覧いただきました

<http://www.coop-hyogo-union.or.jp/>

旬に想う

写真と文
遊方子

貝殻の収集

◆明石市立図書館。廊下の壁面に貝の標本がズラッと掛っている。著名な収集家の菊地典雄氏寄贈によるもので、逸品揃いでありラベル名を見るだけでも楽しくなる。標本が外れ、箱の下へ落ちていて少し残念に思う。宝貝が美しい。中国殷代中期の墓で六千余個の宝貝が発掘されたが、貝は古代から食料やお金や遊具、装飾品など多彩な顔を持っており、造形の美は他に類がない。西宮市貝類館には貝類学の礎を築いた黒田徳米博士の膨大な収集品を展示、自然環境の大切さが学べて大いに楽しい。休館日があり注意は必要だが…。

◆貝殻を収集するのは、昔は上流社会の趣味だったようだ。貝類の持っている造形の見事さや色彩の美しさ、それを所有する願望が、高尚な趣味とされたらしい。ヨーロッパでは貴族の手を渡り歩いた貝殻標本が、博物館の収蔵品にされたりしている。筆者は少年の頃、標本集めに夢中になった。漁労で採れる珍しい貝を求めて、漁師町をウロウロしたり山に積まれた海底のゴミを漁って笑われた。輸入タコから珍種の貝が見つかった話を聞いて、加工場の廃品置き場へ出掛けたりしたが、珍品なんてのは易々とは手に出来ない。しかし、少し珍奇な貝を見つけた

時は、嬉しくて実にココロ豊かになったものである。

◆収集趣味の多彩さは、実に様々で範囲が広い。芦屋の「俵美術館」では収集した《矢立》を陳列展示しており、思わず唖って仕舞う珍奇な品が多かった。集める苦労も無やと思わせるのが、趣味で始めた物集めも或る程度溜まると人に見せたくなるのかも知れない。古い絵葉書を集めたり、民具の収集なども収納場所さえあれば面白くて止められなくなるだろう。珍品を収集して自らの住居を博物館に変えて仕舞う人もいる。収集の世界は、実に奥が深いと思う。

◆明石の林崎松江海岸は、沖へ100メートル伸びる突堤が180メートル間隔で7基ある。昭和57年頃から国の造浜事業として、大規模な養浜が行われた。その結果、風波の浸食で屏風を立てたような絶壁が、防波堤と造浜により快適な海岸風景に一変し、素晴らしい砂浜が実現した。この運び入れた砂には、貝殻が実に多く含まれており、綺麗な宝貝数種が時折見つかる。砂の採取場所を知りたくて管理事務所へ問合せたが、記録が無くて詳細不明だと丁重な返答に恐縮した。今は採取禁止区域となり表に出せぬ事情があるのかも知れない。散歩の途次、見つかるメダカラ貝が、幸運の兆しのように思えて渚歩きを楽しみなのである。



茅葺きの家

大輪田塾だより

「漁業のこれからについて～塾長講話～」

大輪田塾9月講座は、初めての試みとして11日(火)に「漁業のこれからについて」と題し、山田 隆義塾長 (JF兵庫漁連会長) が講話を行いました。

当日、会場には塾生をはじめ、系統団体、行政からの聴講者も多数見受けられたなか、山田塾長は、組合長を務めるJF神戸市の歴史や昔の漁業について話にはじまり、漁業界に必要なもの、リーダー像について、また、若い漁業者に言いたいこと、TPP、石油など多岐にわたり話をされました。

講話の中で、山田塾長は若い人に対するメッセージとして「知識が必要である。これは漁業者に限らず、いろいろな人との出会いの中で、様々な考え方を身につけていくことで成しえる」とされ、参加した塾生は真剣に聞き入っていました。

JF神戸市組合長、JF兵庫漁連会長をはじめ多くの団体の代表や役員を勤められている山田塾長の話を聞く機会に恵まれ、塾生には貴重な時間となったようです。



多くの聴講者がみえました



長時間にわたり多分野の話をされた山田塾長

表紙の言葉



タッチプールのサカタザメ

摂播地区漁青連開催の「お魚教室」の一コマ

子どもたちにお目見えしようとプールから飛び出してきたサカタザメ。おとなしくしていたので子どもたちが手を伸ばしたら、突然暴れました。子どもたちはびっくりして、一斉に後ろへ……。慌てて退いたため、足を踏まれた子もいました。しばらくするとおとなしくなり、再び触って、また「ぎゃー」と退く。きれいに揃った動きを繰り返していたのと、このサカタもタイミングよく暴れたため、とてもユーモラスな光景でした。魚屋のにぎやかしとして扱われることが多いサカタザメ。この日は最後まで元気に泳ぎ回り、タッチプールの人気者でした。